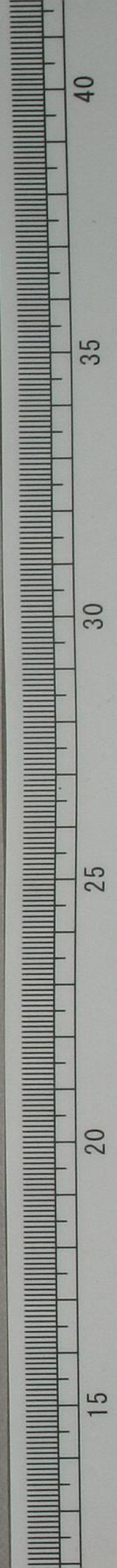


八
十
箱
蔵
書
上

津田文庫
文庫 1
1866
1



伊勢茂

自序

夫我朝之治也
 自神武天皇
 受命以來
 歷代相承
 雖有治亂
 而道統未嘗
 斷也
 又我朝之盛也
 自天智天皇
 受命以來
 歷代相承
 雖有治亂
 而道統未嘗
 斷也
 夫我朝之衰也
 自天德天皇
 受命以來
 歷代相承
 雖有治亂
 而道統未嘗
 斷也

010190616431

とろ玉年此乃其之江
能事と母今迄運ぶか
ぬれを志集めしこのを
子取とじしと志ぬれ
練し子ししと志ぬれ
めくろる方行ぬ

柏木生示

八十翁疇昔話其刻既成僚屬
柏木生示余請一言按譜牒翁
諱正朝稱新見傳左衛門以父
蔭奉仕神田潛郎延寶中入為
大朝扈從隊士享保之始致仕
號法入寬保二年三月以老病

沒于家壽九十二蓋翁在事保
中筆記百年以來遺聞則其事
在今殆又二百年外矣余嘗謂
天下風俗古今殊宜未必古是
而今非也雖然古俗多質而後
世多華當路之要宜居今而知

古斟酌同異因時施宜則庶幾
乎可矣凡天貞以前之都俗未
免戰國斬獲之餘習而其武健
壯勇猶足以廉頑起懦輓近軟
弱浮靡惟奢侈之競其陵遲至
於上下征利失士林之大體矣

此書之行也上則為有司移風
換俗之資下則為士林去奢就
儉之鑒其於世道也豈曰小補
哉是余所以喜而序也

天保戊戌季秋

東岳司直并書



八十翁曠昔物語新編上目錄

花のやうさの次第
春神樂の式
婚禮の式刻浪の矢
枕版振舞の事
正月三日子供持びの字び舞の節の風紙
花見小遣を指さる事
往古の式儀
右近源左衛門の事
酒宴に生活
奉公人れ出習事
野狐女當の事
佐先く侍安の事儀


次は十四の柔斗の男子と云く他り。櫻路と云ふり長柄
と云せ。白袴若中袴乃扇子右の手に執と持。三番目小麻上
下着する男若成りち。四番目小布衣の若衆と云する男。其
次は。四ッ目附する大長持蓋ととりく。何ふのけりて。重丸。其
次は。獅子の段と云。中に大若被と重一万度の若衆中
に立。巾幣と云。この若持。四人の六人して。うの若とを皆爲
帽子白丁白きらり袴と若。離子方を左右に附き。笛小被大
若被と。ひやうー打合する時。右の櫻路かぶり。る。獅子神楽
若衆。序破。若のひやうし。若衆。誠。若衆。と。と。威。小。堪
る。斗。こ。も。内。此。無。に。人。成。笑。は。さ。る。と。見。大。若。被。う。ち。爲。帽。子
と。左。右。へ。筋。遠。小。か。ぶ。り。時。く。ま。ち。を。持。ち。げ。あ。ん。と。す。る。是。を
大。き。さ。る。と。う。け。り。て。見。物。無。入。奉。り。を。あ。け。る。扱。近。多。の
江戸中徘徊乃若神楽といふ。人。扱。到。極。深。氣。に。見。る。あ。る。
か。ぶ。き。若。衆。の。と。く。若。衆。の。ひ。や。う。も。う。一。派。大。白。衣。大。廣。袖
など。木。綿。布。子。幅。廣。の。若。衆。の。被。た。り。と。大。若。と。う。く。の。浮
若。衆。と。も。大。長。持。若。被。小。た。ひ。吹。笛。を。吹。と。も。笛。の。若。や。う
歌。小。ハ。小。唄。ぶ。り。は。合。々。吹。獅子。段。は。り。て。と。も。是。を。か。ぶ。り。と。
若。く。の。好。色。の。無。小。唄。狂。云。斗。と。て。獅子。と。り。り。て。重。丸。
舞。ひ。の。狂。云。と。小。極。り。若。衆。男。女。の。氣。を。そ。り。り。る。極。子
下。女。下。男。に。面。白。の。う。ら。ま。る。や。う。に。仕。組。と。を。云。不。道。の。云。也。

1866-1

と。左。右。へ。筋。遠。小。か。ぶ。り。時。く。ま。ち。を。持。ち。げ。あ。ん。と。す。る。是。を
大。き。さ。る。と。う。け。り。て。見。物。無。入。奉。り。を。あ。け。る。扱。近。多。の
江戸中徘徊乃若神楽といふ。人。扱。到。極。深。氣。に。見。る。あ。る。
か。ぶ。き。若。衆。の。と。く。若。衆。の。ひ。や。う。も。う。一。派。大。白。衣。大。廣。袖
など。木。綿。布。子。幅。廣。の。若。衆。の。被。た。り。と。大。若。と。う。く。の。浮
若。衆。と。も。大。長。持。若。被。小。た。ひ。吹。笛。を。吹。と。も。笛。の。若。や。う
歌。小。ハ。小。唄。ぶ。り。は。合。々。吹。獅子。段。は。り。て。と。も。是。を。か。ぶ。り。と。
若。く。の。好。色。の。無。小。唄。狂。云。斗。と。て。獅子。と。り。り。て。重。丸。
舞。ひ。の。狂。云。と。小。極。り。若。衆。男。女。の。氣。を。そ。り。り。る。極。子
下。女。下。男。に。面。白。の。う。ら。ま。る。や。う。に。仕。組。と。を。云。不。道。の。云。也。

獅子
 舞
 乃
 高



英一蝶華
 信田慶壽寫


とそを是より神楽乃詮るべきや。神も由悦あるべきや。

一七十年前の今小勢りたる者様上下の婚礼の刻限日也。

ひりい。婚礼の吉日を極先を日聲の方より男の方より。

親類縁者惣名の他人も寄合ひ夕飯料理出し。日出夜と

ぶき。書と待つ男の方よりとも同前扱日を書好む。舞乃門

前玄冥。昼下りりとも紋付の九き。挑灯立ちたる。書六つと打て

も。少中と興入る。舞の方小寄合ある。親類興いと。遅く。

誰う。遅小系れと。家老用人の内違小。夜更し。まうて。毛興

入る。違バ。親類の内誰を。お人。遅小系る。と。て。宜し。或

立振也の者吟味して。各手親類お人。遅し。けき。由興おそ

早く由入の振ると。舞の由親中。よ付。由違小系れと中。男乃

方に寄合居る。親類立。出立。夜更し。出合ひ。付お

べしと。少中。男方より。同。位の者。親類。出興。押付。我

等。由。同道。ゆ。ゆ。べしと。中。う。る。人。興。乃。迄。務。之。何。あ。る。と。あ

こと。多。る。なり。お。み。つ。時。も。なり。白。張。玄。紋。の。九。挑。灯。書。行。ま

て。物。お。げ。興。の。先。二。つ。又。ハ。四。つ。も。六。つ。も。揃。せ。挑。灯。の。数。を。大

身。小。身。に。應。じ。透。不。熱。と。て。嫁。入。ハ。男。の。方。より。ハ。興。を。お。し。も

遅く。出立。を。利。運。と。し。舞。の。方。より。ハ。夫。一。の。お。も。早く。入。を

利。運。と。し。る。と。早く。出。せ。は。舞。小。遊。逆。の。吟。味。之。依。之。い。の。う

遅。き。ハ。舞。逆。の。や。う。な。なり。う。う。う。又。依。る。興。の。遅。く。乃。う。う。う

云々とある。如何極の事も。今日日出度祝の寄會なれば。中
りも中より。祝方もその事ハ不肖してゆるは勿論祝の
内も。お小こする程乃あやまり河邊ハ今日中祝と吐あふ
は生才玉の振也も近多ハ人情落くなり。一友もや。それ
一ひりハ正月男子ハ破魔弓にて的と射女子ハまりつ死を祈
と法く。村乃舊古の爲之。二月ハ男子猪合とて。庭を掃と掃
合女ハ雜遊びとく。おかを勝り。食をと傳へ。色々の法乃
と加さう。系餅と離の行法に入。其酒と湯の巻ハ。是ハ小
蛤ホ沢山。是向の礼とて離と系物とのせ。おひ持さく
祝方ハ系ハ。是ハ成人の時。婿入して世帯持の舊古なり。而
分の事ハ。おあさるべし。

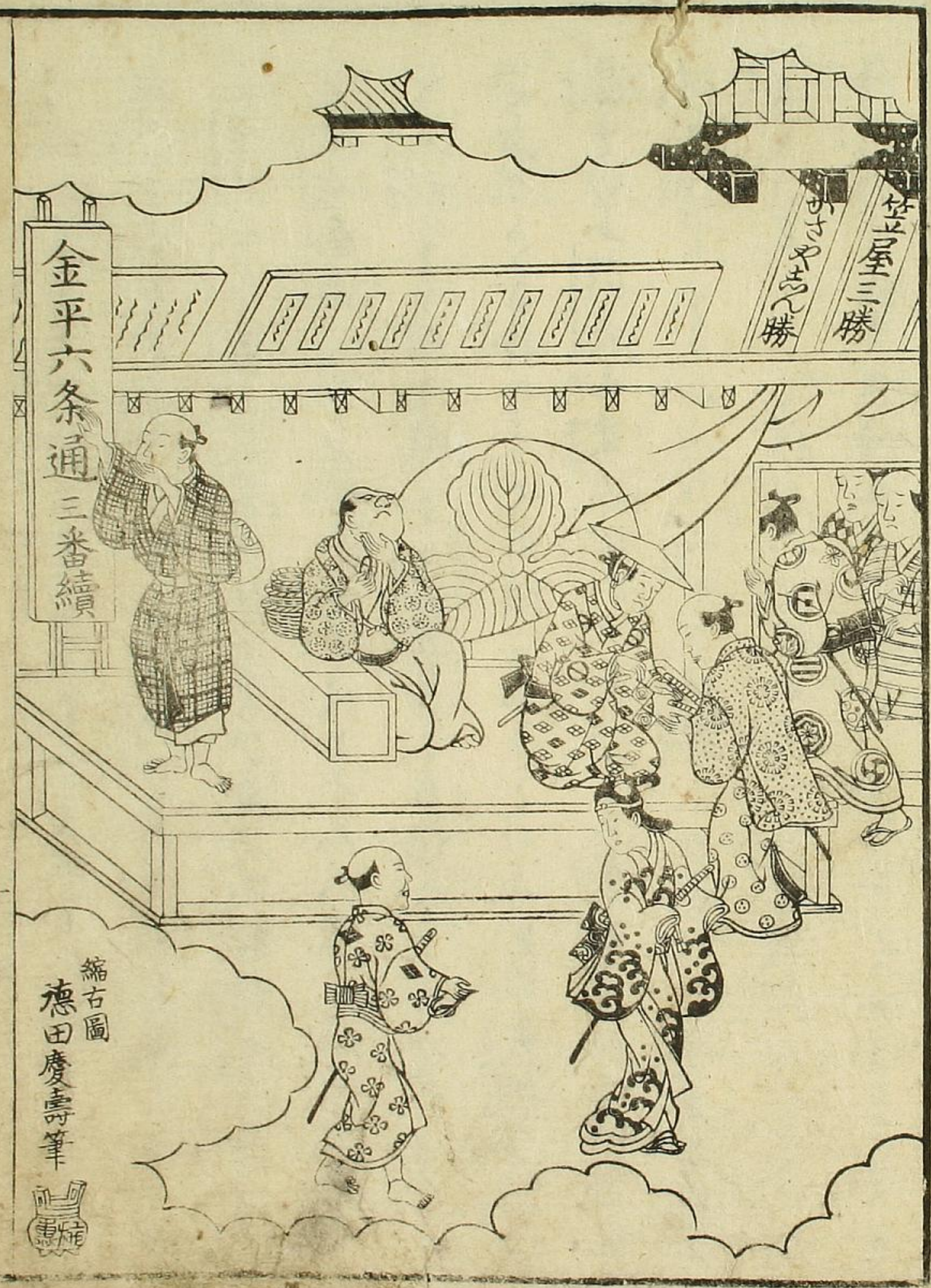
是古事記と按ずるに。二月二日離と系する事ハ。神代古事記
の事とす。それ。お老名の事ハ。日本醫業の祖ハ。民人乃
病若とわかれ。その事ハ。茶茶とさう。何ぞ。或ハ浦。おひと
教へ。おひ。一友。法民を悲涙と。のん。ト。なり。其。役日と。教へ
おあさる。こと。わん。又。お老。名。命。と。け。ら。系。と。て。法。人。は。彼。せ
し。め。病。除。一。友。今。は。ま。り。と。け。ら。系。と。て。傳。へ。傳。へ。傳。へ。
系。建。る。之。去。は。依。て。昔。の。離。ハ。傳。爲。帽子。之。尤。神。代。質。素。を
傳。へ。一。友。紙。と。く。作。り。し。つ。の。次。ハ。お。天。子。公。の。冠。彼。紙
着。せ。法。乃。お。ま。り。と。く。何。れ。ぬ。英。と。そ。は。是。古。代。と。す。

敵之想として六首向の子。案時記その弁法固ふゆる由略
一六月首向翌六日男の子生。七女斗より十三女まで。大将
敵べき子を兜と加ふり。志やうぶ刀と指一舟と持候まつり
子生を志やうぶ刀とさせ。葛蒲よてはあまきさせ。月乃
貝と吹きて。備へて。いんどの切といふこととして。持候
軍陣の稽古。其方をあまき。九月を生義養小載せ取。のを
此。是等の祝儀。いへ。毛道に稀。又子生。神恩のころ
を敬ふ。敵入して馬とわつら。稽古女子。百人一首と
させ。あまき。とせ。貝のそびさす。首を正月。首向
として。あまき。する日。何程小身。より。あまき。主人。上下と
させ。

客日逢ふ。召仕侍も。上下。新日。十日。廿八日。ハ。袴と。着せ。六首
向。ハ。内室。髪を。梳。石。仕。針。め。う。毛。髪。を。梳。十。女。以上。の子。生。
秋。の。ご。く。ま。く。乃。衣。被。成。させ。神社。佛。閣。ホ。あ。ま。り。毛。小。身。と
ても。髪。を。梳。主人。を。上下。と。着。せ。を。多。は。主人。を。兼。後。衣。を。人。
より。袴。を。り。り。より。系。詣。す。内。室。を。大。形。乃。衣。被。巾。廣。の。帯。歩
仍。より。袴。を。着。せ。し。る。後。
一。む。り。ハ。む。足。梳。山。より。小。身。通。も。袴。と。持。せ。侍。を。法。進。く。出。る。
あ。ま。き。流。も。同。く。その。内。室。き。流。も。不。自由。乃。時。を。袴。持。侍。の。な
た。れ。ハ。六。や。う。う。ま。き。に。出。ら。る。あ。ま。き。流。も。兼。後。と。り。を。り。り。の。
連。友。四。六。人。より。あ。ま。き。く。る。袴。を。て。む。足。梳。山。より。出。る。人。も。あ。ま。き。

しく捲く。よるり初まる。前より先式二番。斐能のこく。海へそ
次より人寄と。和田酒盤ひと流。前よるりと海へそ。海へそ
そ日のよるりと何よても初る。道理を極へる。多る。又
ある。雨を深も上。先よりき。初より。て。後。理。法。ま。り。つ。る。雨。又
を働う。ひぐ。教。智。仁。勇。の。形。ホ。洗。云。よ。て。死。せ。つ。る。時。ハ。先
比。置。を。く。ひ。し。む。る。先。と。ま。ま。も。後。志。も。手。扱。と。比。近。年。乃。様
を。大。柄。も。大。廣。袖。の。伊。達。小。袖。人。形。の。面。も。浮。氣。に。捲。お。と。も
な。ふ。席。ホ。も。皆。白。衣。女。の。人。形。を。由。登。所。と。い。ふ。も。お。や。ま。人。形。
な。け。清。田。小。袖。を。伊。達。と。そ。よ。る。り。初。より。終。り。ま。で。好。色
を。お。く。その。上。本。に。竹。を。捲。く。や。う。小。代。遠。ひ。あ。ま。き。所。

出すはきまを。出。る。と。名。通。バ。切。方。も。あ。る。想。極。は。増。も。な。く
は。く。乃。遠。ひ。る。筋。は。意。を。他。り。こ。め。先。と。幼。也。お。れ。流。杯。は
物。て。ハ。よ。き。事。と。思。ひ。浮。氣。は。な。れ。人。ま。で。そ。り。立。ち。大。好。色
小。柄。り。一。切。濃。ろ。き。足。物。の。む。の。乃。洋。福。理。の。仕。組。を。命。乞。能
谷。先。陳。同。若。仲。光。孝。番。九。牙。留。り。杯。を。な。後。理。小。借。り。つ。る。仕
組。之。今。を。初。ら。し。く。き。名。付。多。く。ハ。持。も。あ。ま。き。あ。い。ど。も。な。り。
昔。う。こ。ん。派。在。束。つ。と。い。ふ。あ。ま。き。若。系。初。より。考。人。下。り。之。味。縁
む。き。を。人。地。う。つ。ひ。き。人。し。て。右。派。在。束。つ。藝。を。する。時。今。の。う。つ
ら。採。う。が。物。な。り。う。こ。ん。の。あ。く。さ。物。細。き。糸。と。つ。け。歌。ま。り。か
つ。そ。ふ。く。さ。物。ひ。ら。ひ。は。打。う。る。よ。う。く。は。ぬ。く。さ。物。



縮古圖
徳田慶壽筆



月代とつくす。面辨奇麗ある若志なれば女のごとく不見甲の
扱藝とてを。漸乃下りあきり乃乃好のうと。地楓よりとを
せまとわし舞ふ又業平候と異ひりふ所。獨程云は菊小見
と徳人面白がり見物申す。其後七十六六事の次。以深在の
と人形より作り。紙より注ぬき日も作り。うあん乃ふくさ
のかりする辨あり。その後のおきとつふその妻化ん^{如妻}
扱といふ改む出来十四六七八の差違うつくしき子
供と作りし。かぶき踊とて世。駱くくをやり。喧嘩も度々
あり。さ日づりく。浮世乃元。この為に大勢滅亡もあるゆゑ
浄法度は成て。子供もなる茶髪と落して。髪亦なる。是也

帝の初め之猿若初之帝の後之代目申村の名字ある若史
本ありし。又上方より古く傳内といふ志下り。二座亦あり。
其後歴々をやり。沈舟は強て。玉川主膳市村竹之通於傳
内といふりの下り。これ其若若駱くくをやり。其時分程を仕
組む。於政務を封て。その由褒美か。何やめの前小獅子玉と
いふ由扱下されし。辨於政に特衣小立烏帽子猿子若もひ
烏帽子は並番何進毛大は若く。あひぐ教録して。又若の程
云志人を志人若殿ハ殿乃若殿の扱は家を要局未もて是
きくの扱より。物とてをそれく。およく仕組義理の子。哀れ
あるゆゑ。勇氣のそげしきゆ。それく。おんと入る大と殿

幼少の子供も、若き流傳流足習ても、少くも乃嚙りもあり
し。を多に仕組む。家おもつて、毎に始より終まで、無任法
至極ま。親子兄弟才同席して、見物あり、くさき。是と云
き流、其に娘達、東方の足物。さうといひ、極難し。是と云
と思ひ、ふ友、法人、いやくのま、いやく。髪、結、や、風
俗、ま、ま、縁、ふ、友、有、ま、を、歴、く、の、流、ふ、よ、ろ、く、う、ぬ、子、好
色の、程、幾、も、何、る、ぞ、か、い。若、死、子、供、流、娘、も、持、る、ふ、流、も、人
つく、べき、ゆ、ゆ、い。

一、む、い、い、流、大、才、小、才、も、に、振、舞、歌、出、し、の、出、會、時、に、若
内、傳、の、ま、を、い。先祖、の、手、振、舞、又、を、當、世、の、武、道、武、道、乃、せん

ぎ、刀、振、指、の、物、數、宗、室、囃、口、傳、の、是、非、の、流、沙、流、男、乃、の、嚙、和
ら、の、なる、奉、ハ、葉、乃、湯、吐、し。是、より、弁、に、別、乃、幾、なり。さ、る、ま
よ、り、刀、振、指、の、大、い、い、尺、の、長、短、利、の、の、吟、味、と、先、ト
物、度、く、手、が、け、く、る、指、料、面、く、は、物、好、し、て、さ、る、ま、拜、教、又、お
客、十、人、お、進、バ、十、文、の、物、數、宗、中、に、卷、人、あり。中、多、あり。若、死
流、有、依、之、二、尺、余、の、刀、も、あり。二、尺、四、六、寸、の、刀、も、有、二、尺、半
の、刀、も、あり。種、き、多、若、死、何、り、梅、も、色、く、ゆ、り。あ、る、ぬ、人、來、て、見
ても。是、を、大、才、流、の、刀、あり、んと、若、死、中、多、卷、人、ま、く、ま、刀、不
て、指、之、知、る、程、の、ゆ、い。近、多、を、花、板、の、ゆ、あ、く。振、世、會、合、の、時
刀、掛、は、ある、刀、を、さ、進、バ、寸、尺、梅、亦、在、時、の、ま、や、り、は、終、い、い、

色君連來れとある時を男女六人色君連來る。其内人持
恰好よく氣を入り志われ宿へ伺う。大座へこれ先立成り
切米乃言取之。其貸木極め男女とを食ふはき。先一日石
つにいまこの仕子中付。明日を子給より米以極中付返に
翌日も又味使ひ。又明日米以極中付。此は男女とを六日を
十日も毎日味よせ。君つにい。其内弁によき志米以。是を
いある事も十日も過し。其奉公人もさや裁りくお勤
る。何れを此情状に作付て其下と頼小時。情状致しせ男を
その時女を翌晩引越し。その比の奉公人の食ふはけい。後
をぐいとい。この弁むつうくありて。奉公人も構えられ宿

までも迷惑及ぶ。熱く男の奉公人あり。かゝも悪事
述べる。手討ふも。わけ落すれば。あるも出させ。引よせ。く火く物
よめる。お。乃あり。ここに。一月二之夜つも。ある。夜下
の作法も。よく。刀振指の及のん。見も。調く。
一番を。侍。元野。遊び。出る。子。歴く。は。う。ふ。ゆ。は。米。引。の。違。志。
山坂。火。を。替。古。の。為。く。毎。當。會。物。持。せ。出。す。町。で。會。物。と。ら。
の。一。會。ふ。子。を。初。て。町。を。持。る。會。物。取。り。い。ま。ん。ち。う。
この。ま。餅。焼。餅。の。弁。乃。物。を。寛。文。辰。多。り。う。と。ん。を。切。
七十。多。の。前。は。沙。籠。本。調。て。會。ふ。志。を。近。多。の。大。才。歴。
す。で。けん。と。ん。を。喰。ふ。

笑ひそしる。去より。芳製のゆる。花丸。多く付る。分る
て。大う。一貝。と。二月。後。付切。或人の子息。十六。才。の。お
流。一ヶ月。一貝。付切。と。て。香。沙。法。せ。し。花。の。子。の。油。多
付。香。の。法。振。入。り。ある。油。の。の。げ。放。べ。と。笑。ふ。あ。多
付。る。人。た。う。う。今。大。き。ある。貝。一。つ。と。二。三。度。不。付。切。
友。伽。羅。の。油。う。る。所。多。女。中。貯。り。つ。付。る。

一。ひ。り。の。懐。中。た。を。こ。入。と。ふ。り。骨。て。た。く。結。も。悪。く。と。を。
亭。之。の。香。葉。粉。盃。に。の。を。香。の。香。振。も。亭。之。の。香。葉。出。る。よ。で
香。の。香。之。物。貯。し。く。た。を。と。来。れ。と。ま。し。れ。が。密。ハ。先。法。亭。之
より。来。れ。と。盃。茶。の。と。く。二。三。度。ハ。い。ふ。其。時。亭。之。鼻。紙。を。危

ぎ。て。き。せ。る。の。つ。を。と。は。つ。し。き。せ。る。を。ぬ。ら。ひ。是。よ。て。来。れ。と
差。出。に。密。つ。を。き。て。香。を。こ。結。を。お。ひ。ふ。一。ふ。く。も。二。ふ。く。も
吸。法。を。お。て。密。前。に。重。く。帰。る。時。を。鼻。紙。を。と。ぬ。ら。ひ。た。を。こ
盃。に。入。る。む。ぬ。ら。ふ。時。亭。之。の。候。う。重。れ。と。い。ふ。り。亭
之。改。設。の。祝。方。な。れ。ば。香。と。い。ふ。も。と。を。結。ば。と。て。不。吸。其
比。の。う。れ。な。き。や。の。こ。と。い。つ。る。人。も。六。月。う。統。と。て。我。意。を。そ。し
人。も。懸。懸。の。病。友。又。を。祝。方。を。人。の。前。に。う。た。を。こ。香。人。た。う
近。多。ハ。其。の。香。振。法。子。可。之。若。い。ふ。を。大。入。丸。振。し。て。も。私
の。う。ら。い。な。き。と。ゆ。て。が。く。し。け。る。と。是。比。の。あ。を。こ。入。せ。の。あ。つ。不
て。紙。の。あ。又。ハ。吹。給。墨。流。あ。ど。よ。て。路。分。兼。お。あ。る。今。ハ。金

入。ごん。若也。ちん。ま。の。う。う。は。ま。ぬ。り。言。府。後。ち。地。の。
りて。自。慍。け。は。出。は。

一むり。を。四。月。ご。ろ。より。伊。勢。津。度。子。と。て。板。小。を。さ。み。う。り。わ。
り。く。り。黠。一。子。石。以。下。の。面。調。若。る。僕。を。交。禮。之。帷。子。賣。も。
縮。言。文。と。て。賣。わ。り。く。い。言。文。禮。の。よ。き。り。や。う。ハ。帷。子。は。賣。
又。袴。う。り。き。も。あ。り。調。若。る。若。及。六。六。な。り。一。近。年。ハ。
奈。ま。ら。ず。う。し。の。物。ち。み。何。進。も。言。文。一。袴。郡。内。平。精。好。ひ。ら。
何。進。も。言。文。あ。る。と。り。ト。ハ。皆。縮。度。子。は。放。て。今。ハ。賣。物。だ。一。

一若。は。神。社。用。帳。又。ハ。寺。々。四。十。八。款。子。日。万。日。の。回。向。と。い。ひ。は。此。
寛。文。申。年。万。日。回。向。黠。一。く。ま。お。る。用。帳。も。毎。年。三。回。六。月。あ。

り。人。集。る。

一むり。ち。や。つ。こ。と。り。ふ。り。あ。り。大。才。小。才。の。歴。く。も。あ。る。と。
下。く。も。中。小。姓。徒。士。等。衆。中。居。る。と。や。つ。こ。と。り。ハ。才。公。を。
よく。勤。使。を。あ。る。と。右。義。と。い。は。は。式。を。衣。弁。日。を。裕。
と。つ。ま。り。衣。死。面。を。せ。ば。一。日。食。を。喰。ぬ。と。も。ひ。び。る。き。袴。
も。せ。ば。佐。先。と。う。そ。め。を。用。は。立。働。う。ん。か。と。言。云。一。板。
又。懸。く。の。や。つ。こ。尻。ハ。身。持。食。物。ぶ。や。け。と。る。生。や。り。う。れ。る。
体。か。一。好。色。の。子。ふ。た。が。み。く。つ。く。乃。福。た。う。刀。根。さ。し。や。
き。又。の。法。よ。身。を。好。く。侍。乃。の。勇。氣。若。小。才。と。して。人。は。若。也。
又。を。人。の。為。ハ。命。を。病。か。ど。免。い。と。を。ば。支。配。を。殺。び。親。方。



十六

菱川圖縮馬
醉畫堂德田慶壽筆



紫藤袴袴着持糸又袴着斗りも有り。

享保の末元文の次。寛延の今小玉りて。若き流の風を
衣装ハ女のこも。袴を打籠長く。女のはくやうある中袴
足詰と黒ぬりやうもき。大小落し指ふし。或は黄ぬき
指。一こして利方ははこに。又近き比羽折長く。二尺八九
寸ありて。紐ハ太く。是も甚長く。詰むさけ。ゆふたききの
けらる極り。紫ハ額の角とひらく厚く。巻髪とやう
小ゆふらる人多し。よやど大身ある。腰も毛肩衣の幅を
廣くして。袴の羽をひらげらる色も。或は若き多し。は
やりの元ハ。巻後ぶら。詰るおまとい。ふりの羽折とせうして

若くは成衣似肩衣ハ。境町役志の舞臺へ出らる極りよ
き夜中廣と共似らる物とぞ。何處もよりのぬ風俗とま
杯やふ。やれり。て。或は又そのやのころき人ありて。大概
本文の趣あれども。其中に一僕も仕仕ふ。布との屋つこ。辻
芝居。見せ物乃。或は見物して。袴をやらぬと。詰ると。金
袴。乞食の類より。つら。を取といやうなる。以や。き。奴も
為。今。お。一人。をも。多。召。仕。ふ。奴。毛。は。或。有。る。れ。夜。や。も。せ
述。ハ。大。き。ある。引。と。ある。有。と。ん。と。く。笑。止。ん。

慶長十九年寛延三。百十七年
一昔。茶。文。古。の。比。夏。早。氣。流。き。夜。法。人。涼。の。為。よ。ひ。つ。た。船。小。屋。お
と。仕。掛。是。と。う。て。濱。州。川。と。糸。巴。以。是。と。船。遊。び。の。初。之。遊。年

の比々大名流も出し。大勢の侍も名に。船使くも一。あ。二。
次牙に亦成大き梅。四六も有。船も成。船使の比。亦成ひ
登。て。明曆中。の正月。大火。の。翌。年。に。至。り。河。城。の。古。藩。諸。を
弁。大。名。流。諸。藩。も。亦。小。亦。中。を。材。木。を。運。送。す。る。夜。涼。乃
屋。形。も。二。四。多。亦。控。止。み。可。治。の。比。又。亦。有。り。大。名。流。も。出。し
る。夜。七。八。百。の。屋。形。亦。梅。一。境。八。門。一。九。関。東。丸。大。関。東。丸。一
九。く。ま。丸。十。百。一。丸。亦。一。名。付。大。名。流。ハ。格。を。有。り。河。藩。本
を。控。也。亦。入。是。と。之。之。の。格。亦。一。之。大。名。流。ハ。用。人。小。度。子
肩。衣。着。す。る。も。あり。し。

一。し。り。一。二。三。百。石。六。六。百。石。の。流。の。子。供。十。七。才。十。四。六。才

六七才も子供亦常々。お親の儀の給仕とさせ。勿論茶の給
仕もさせ。お世。一。格。格。仕。入。扱。客。有。り。常。務。と。若。小。姓。の。一
く。居。仕。ひ。茶。の。給。仕。と。さ。す。る。夜。お。の。づ。う。と。三。四。り。中。も
小。笠。系。頼。乃。替。古。杯。と。せ。る。流。の。子。息。達。を。於。以。て。五。四。丁。は。
左。格。一。幼。少。小。姓。の。如。く。若。い。勤。ま。す。る。夜。成人。一。と。男。と
扱。て。も。我。俵。せ。は。状。一。も。一。か。一。は。く。然。る。亦。近。年。の。子。息。達
を。密。り。通。バ。と。て。も。産。後。一。も。不。出。と。向。く。出。て。毛。祝。の。例。一。並
び。居。て。か。一。う。つ。け。と。る。子。の。身。を。い。下。り。身。と。よ。一。世。一。也。と
一。口。と。い。下。り。亦。一。け。尽。し。て。退。屈。す。れ。ば。ず。ん。と。五。務。手。一。入
森。の。起。つ。む。ど。口。歩。居。る。又。利。敷。有。る。生。達。の。子。の。祝。の。也。は。

よく折くうし出口。多奇又を懸念にすべき客も口をきく
のけ。志の毛切をねば。公儀わい初めなれ。世の布と拍
子も悪く。性還をどこれさうい。時もある物。志と志出。子供
小不似合料理。喰物。金銀の沙汰といひ出。心何の客ふん
ぎうれあとする。祝の了。皆遠い。今風合点中ね。
一ひの。切方の子供。又を家此。流法。藝と藝古。まるに祝連
子供と一和。小神文。し。藝古。場。同道。し。終日。足物。して
居。藝古。さする。是。お。子。仲。る。と。同。士。一。極。の。口。福。も。氣
を。い。又。ハ。藝。古。精。出。さ。せ。る。為。扱。又。主。教。方。と。覚。り。失。を
の。中。の。建。ハ。極。よ。て。あ。や。と。宿。よ。く。藝。古。の。い。ま。人。為。ふ。し。遊

年友極のひち。藝古というて。宿と出。何方。一。中。あ。る。は。
一。若。客。と。扱。法。乃。就。是。ハ。祝。被。を。被。法。了。り。小。高。之。味。線。と
り。小。ま。く。の。波。若。或。ハ。産。次。あ。と。味。を。皮。と。小。し。く。多。く。自
分。と。して。を。藝。古。中。の。稀。之。味。ハ。女。中。を。極。以。て。す。子。の。ま。り
し。く。之。味。線。上。り。り。加。さ。る。子。極。漸。琴。採。斗。之。男。ハ。一。法。了。り
後。る。人。を。何。り。若。系。に。い。あ。む。と。て。扱。女。を。人。法。了。り。是。日。蓮
山。入。兵。人。極。の。道。行。あ。ど。花。何。つ。め。口。版。等。之。法。了。り。め。い。よ。乃
子。と。中。せ。し。之。道。多。七。佐。が。し。を。や。り。て。り。女。中。も。縫。針。藝
古。ハ。花。重。上。り。り。之。味。線。と。深。き。何。も。合。点。切。ぬ。り。し。
一。む。し。ハ。翼。方。由。息。女。物。系。り。下。髪。佐。佐。上。下。系。女。中。常。時。を

藏の合入中二寸斗。長七尺六寸。志んめう。腰元も右の
又二寸。志のちんの帯。ちんめう。本締の合入とく。櫛くる合
入杯を。寛文の次より。中廣くあり。延宝の次程廣長を又
二二尺。二二尺二寸割。二寸割をせし。費多るゆへ。昔ハ女中地
ありとある。

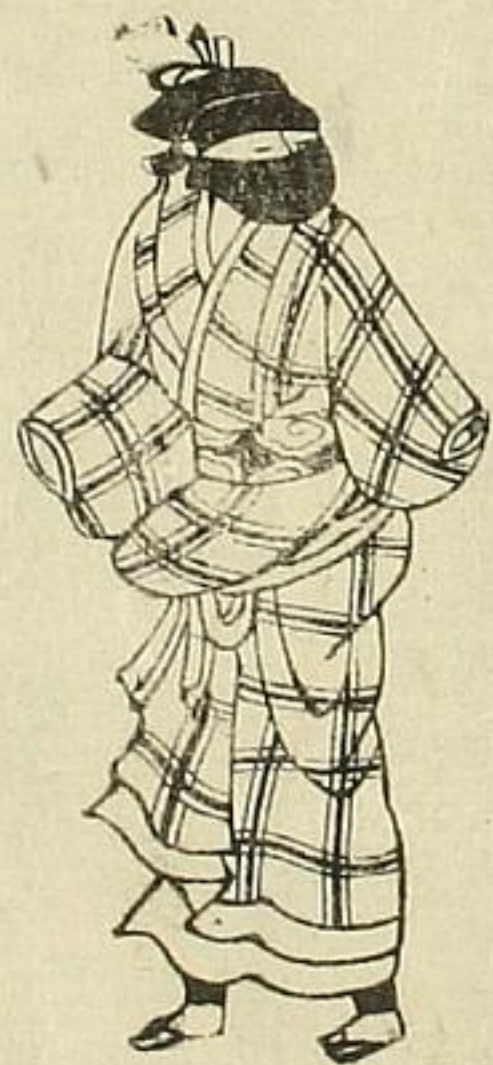
一昔ハ宮と味。猪前日ハ茶とをこ斗出。猪道て及物。酒茶之出
出次を奉ハ猪前日吸物。酒肴出止。蕎麦切振。巴形以て出次。
此取日本料理とせられず。扱又他人の事。ハ猪仕。女と出次
りあり。を奉ハ初と味。他人より。女ハ猪仕とせ。酒乃相手
おせり。吾化法あるゆもあし。

一巾りハ小身二三百石。四百石位。の尻。奥方。母儀。息女。を方
を不及中。近取。一も歩。歩りてあり。く。子。皆。祭物。之。祭物。り
きも。人。足。ホ。又。か。する。子。波。し。く。あり。手。前。中。右。に。銀。指。こ
させ。人。か。の。時。を。祝。中。より。借。方。一。それ。ても。不足。の時
を。町。人。足。志。人。斗。ま。せて。の。に。社。社。仏。家。諸。建。持。山。も。先
り。出。し。の。友。市。籠。本。の。奥。方。息。女。ホ。の。教。え。る。子。あり。息。女。ハ
七。丈。以。後。ハ。人。よ。ま。ま。え。ん。石。位。も。腰。元。位。ま。で。を。覆。面。して。又
を。綿。子。て。か。ほ。ど。かく。し。明。曆。の。比。を。計。り。て。腰。元。の。り。ぎ。ハ
く。き。を。り。き。し。万。治。の。比。に。戸。中。う。り。ぎ。止。む。酒。の。年。火。

菱川師宣圖



貞享の比繪は此圖あり



貞享四年印本

武道傳來記に載る圖



